



水俣芦北圏域在宅医療・介護連携支援センター所長

榮永 徳博さん

INTERVIEW

最期まで安心して暮らせる地域へー

水俣芦北圏域在宅医療・介護連携支援センターでは、自分の思いを整理し、大切な人に伝えるきっかけ作りのため、「私の人生会議」ノートを作成しました。同センターの榮永さんにその思いを聞きました。

在宅医療ニーズの高まり

現在、水俣芦北圏域の高齢化率は40%を超え、2025年には45%に迫ります（図

超高齢社会の日本で進められているのが、在宅医療・介護連携に向けた取り組みです。水俣市芦北郡医師会でも、「水俣芦北圏域在宅医療・介護連携支援センター」を中心に、さまざまな専門職とのネットワーク会議や住民向け講演会の開催、「私の人生会議」ノートの作成などに取り組んでいます。

1）。社会保障費の増加や医療介護現場の人材不足、施設受入数の限界など、全国の医療現場が抱える問題は水俣芦北圏域も例外ではありません。

昔は家族で自宅介護をすることができましたが、現代は核家族世帯が多く、病気になるったら長期入院や老人ホームへ入所するケースが多いです。しかし、令和元年に水俣芦北圏域で実施したアンケートでは、人生最期のときをどこで迎えたいかの質問に、40%の人が「自宅で迎えたい」と回答しています（図2）。

自宅ですごくしたくても過ごせない人がいる現状を解決するために推進されているのが、在宅医療の充実です。

在宅医療の拠点

水俣芦北圏域では、水俣市芦北郡医師会と市町が連携して、平成28年に在宅医療の拠点となる水俣芦北圏域在宅医療・介護連携支援センターを開設しました。同センターでは各専門職の連携や住民向けの周知啓発などを行って

り、最近ではタブレット端末を活用した情報共有の取り組みを始めています。

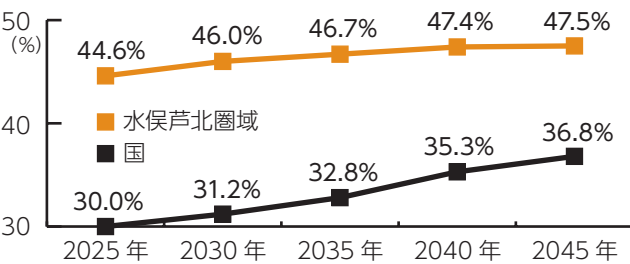
事業所や人材を増やすことは難しいですが、今ある機能を最大限に活かす方法を考えながら活動しています。

病院・施設・在宅 人生の選択肢を増やす

同センターでは、人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）の啓発を目的に、1市2町から委託を受け、令和2年6月「私の人生会議」ノートを作成しました。これは、自分がどのような医療や介護を望んでいるかを記録し、家族と共有することで、万が一のときにお互いが望む支援をするためのノートです。医療機関や老人クラブなどを通じて、これまでに2千冊以上無料配布しています。

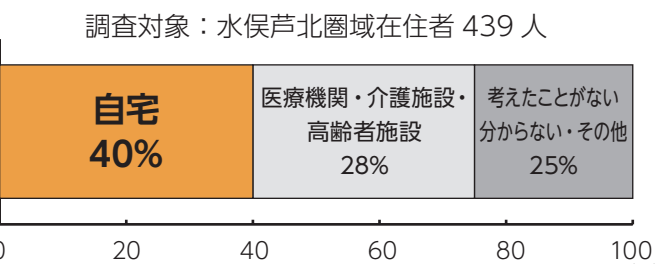
在宅医療が定着することは、一人ひとりの人生の選択肢が増えることにもつながります。水俣芦北圏域の在宅医療をもっと充実させて、一人でも多くの人が幸せに暮らせる地域にしていきたいです。

【図1】高齢化率の予測（水俣芦北圏域・国）



【資料】国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」

【図2】人生の最期を迎えたい場所（水俣芦北圏域）



【資料】令和元年8月実施「在宅医療・在宅介護に関する住民アンケート」



【八代七浦広報グループ合同特集】

わたしの思い、つなぐノート

「終活」という言葉を聞いたことはありますか。「終活」とは「人生の終わりについて考える活動」を略した造語。自分らしい最期の時間を元気づけながら考えておきたいという人が増えていきます。

今月号は「終活を始めようと思うけど、具体的にやるのが分からない」という人のための特集です。人生の最期を自分らしく終えられるように考えてみませんか。

この特集は、八代市・芦北町・津奈木町・水俣市の広報担当者が協力して作りしました。